

# 令和7年度 第3回さいたま市民大学運営委員会 議事録

## 1 開催日時

令和8年1月8日（木） 午後2時から午後3時30分まで

## 2 開催場所

生涯学習総合センター 10階 多目的ホール

## 3 出席者

〈委員：10名〉

- ① 山中 冴子 委員長
- ② 秋本 創 副委員長
- ③ 小澤 千佳子 委員
- ④ 川又 伸彦 委員
- ⑤ 黒金 英明 委員
- ⑥ 佐藤 重房 委員
- ⑦ 佐藤 美子 委員
- ⑧ 関根 広美 委員
- ⑨ 富岡 泰夫 委員
- ⑩ 水町 浩之 委員

〈事務局：11名〉

生涯学習総合センター

- ① 館長 杉本 達洋
- ② 副館長 大城 冬樹
- ③ 主幹兼事業・企画係長 山田 浩行
- ④ 事業・企画係主査 三好 七月
- ⑤ 事業・企画係主事 小暮 裕貴
- ⑥ 社会教育指導員 渡邊 京子
- ⑦ 社会教育指導員 永井 紀美子

生涯学習部内関連施設

- ⑧ 青少年宇宙科学館 加藤 優志
- ⑨ うらわ美術館 松原 知子
- ⑩ 大宮西部図書館 松尾 紀子
- ⑪ 博物館 瀧本 美佳

## 4 欠席者名

〈委員：1名〉

- ① 多田 宏美 委員

5 報告事項

(1) 前回の議事録について

6 協議事項

(1) 令和8年度さいたま市民大学各コース(案)について・・・・・・資料1・2

- ① 教養コース ～ メディカルコース
- ② 市民企画コース ～ パソコンコース
- ③ 科学コース ～ 歴史コース

7 その他

(1) 今後のスケジュールについて (予定)

8 公開・非公開の別

公開

9 傍聴者の数

0名

10 報告内容

(1) 前回の議事録について、事務局から説明。

11 協議内容

(1) 令和8年度さいたま市民大学各コース(案)について協議。

- ① 事務局より、教養Ⅰ・Ⅱ、心理、さいたまの魅力、こどもの交通、おとなの交通、メディカルの各コースについて説明をした。

以下、質疑等の内容

【教養Ⅱコース】

川又委員	放送大学でも、彩の国さいたま芸術劇場（以降、「芸劇」とする）に協力いただき、座学と施設見学を実施している。座学だけでなく施設見学もあると、立体的に理解できるのではないかと。可能な範囲で検討をお願いしたい。
事務局	バックヤードの見学も検討したが、参加人数が多く今回は難しい。今後検討させていただきたい。
水町委員	内容が幅広いが、能や歌舞伎等も含むのか。あるいは、芸劇に関わるもののみとしているのか。現代演劇を中心とするのであれば、テーマの記載もその方向に合わせるのがよいと思う。
事務局	依頼している講師は現代演劇が専門なので、現代演劇が中心となる。

	内容がまだ詰まっていないが、テーマなどについて、適切な記載にしたい。
水町委員	能や歌舞伎については、今後別の機会で検討してほしい。
佐藤美子委員	芸劇でも独自にいろいろなことをしていると思うので、市民大学としては劇場とは異なる視点からの企画で攻めていくのもよい。また、演劇に馴染みのない人でも参加しやすいよう、柔らかく親しみやすいタイトルが望ましい。現代演劇という表現はやや難しく感じられる可能性があるため、ハードルを上げない工夫が必要。
小澤委員	担当講師はシェイクスピアを専門としているのか。そうであるならば、芸劇との連携あってこそだと思う。シェイクスピアは難しい印象を持たれがちだが、実際には親しみやすい面もあることを伝えることが重要である。名作など、皆が知っている作品名を示すことで、興味を持ちやすくなる。
佐藤重房委員	1回目と2回目は連続講座で、3回目は単発の講座か。
事務局	3回目については、完全に単独ということではないが、独立性を高め、それだけでも成立する講座として検討している。
事務局	舞台芸術に関する講座は、これまで市民大学で開催したことがない。行ってみようかという気にさせるキャッチコピーのアイデアがあれば、後日でもいいので、ご意見をいただきたい。
山中委員長	3回のみ受講可能とするとのことだが、どのような内容、流れの講座となるのか。
事務局	観劇へのハードルを下げたい、土日ならば若年層も来られるのではないかと考えて、3回目は追加募集というチャレンジもしてみようと考えた。
山中委員長	メディカルコースは、3回を個別には分けられず、連続して受講することで学びを深めてほしいとのことだった。演劇に関しては、観劇のハードルを下げるために、講座を分けている。市民大学として、舞台芸術を扱うときに、どのような方向性で何をゴールとするかを精査していくべきではないか。
事務局	市民大学は、全回出席可能な方に来ていただき、連続講座で学びを深めていただくのが基本である。同じ曜日で3回来られる人はよいのだが、平日の参加は難しい方もいるので、今回、3回目だけ曜日を変えてみようと考えた。
山中委員長	原則を変えようとする際の判断がどこでなされるのかが気になる。講師の方の気持ちを尊重するのは理解できるが、原則とのすり合わせをどのようにすべきなのかが気がかりである。
秋本副委員長	講師の意向もあったので、3回目を拡張させて行いたいということなのか。市民大学の方向性として、もっとハードルを下げる方向に向かいたいのか、あるいは、今回だけ試しにやってみるということなのか。
事務局	地元資産である芸劇を活用したいということもある。市民大学には地元資産に足を向けてもらうという役割もあるのではないかと考えた。

事務局	コースの説明の仕方として、まず方向性を語り、何に基づいてどの講座を企画したかという各論を説明した方がよいと思うので、それは次回の課題とする。教養Ⅱコースを使って観劇のハードルを下げるというよりも、市民大学の講座に足を運んでもらい、さらに別の講座を取ってもらえるよう次へのモチベーションになるとよいと考える。市民大学はその名のとおり老若男女を問わず広く受けていただきたい。各コースの受講者ターゲットが明確でそれが伝わるようなカリキュラムとすべきである。
富岡委員	ハードルを下げるのは最初がよい。2回目、3回目とさらに知識を深めてもらうような構成にするとよい。
佐藤美子委員	舞台芸術系の講座が初めてなので、まずはハードルを下げて受講してもらい、継続して学ぶことによって、結果として専門性の高いところまで行くというのが望ましい。 3年、5年計画でレベルを上げていったらいいのではないか。
事務局	さいたま市が持っている人脈を使いつつ、行政の部門連携を活用し長期的な視点で講座を作っていければよい。
水町委員	演劇だけでなく、音楽、能、歌舞伎等、幅広く長期的に取り入れて、さいたま市の文化の発展に寄与できるとよいと思う。

#### 【さいたまの魅力コース】

水町委員	デジタル化に伴って貨幣の存在が変わっていく中でのリアル通貨の意味、複数の貨幣が一般的になってくることが専門家からどう見えているかについて、先々を見た示唆をいただくとより興味を引く内容になると思う。
事務局	施設側との打合せ時に、博物館を見学したが、「過去から未来に向かって」ということについて説明していただいたので、実際の講義でも触れてもらえると思う。

#### 【おとなの交通コース】

富岡委員	座学のみで関連する見学はないのか。 全体的に子どもの講座以外は有料だが、有料の方が参加意欲が湧き、直前キャンセルが少なくなると思う。造幣局の講座が受講料500円なのはなぜか。 また、さいたま市と北前船の関係もわかるとよい。
事務局	おとなの交通コースについては、見学は検討していなかった。今回組み入れるのは難しいと思うが、プロジェクターでの映写等を生かし、できるだけ深く学べるようにしたい。見学は次年度以降の検討をしたいと思う。 受講料について、市民大学は受講料要領で時間あたりの費用が決まっている。おとなの交通コースも要領による規定どおりである。

### 【メディカルコース】

黒金委員	熱中症については幅広い世代が関心を持っており、日程を夏休みの時期に近づけるとお子さんでも受けやすくなる。3回で1セットになっていて、2回目だけ聴きたい人は受講が難しい。次年度以降は検討してほしい。
事務局	バラバラの受講ではなく、市民大学なので、連続講座で学びを深めてもらいたい。

- ② 事務局より、市民企画、ビジネススキル、ICTスキル、プログラミング（こども向け、おとな向け）、パソコンの各コースについて説明をした。

以下、質疑等の内容

### 【市民企画コース】

秋本副委員長	第2回に扱う作品の著作権問題についてはクリアできているのか。
事務局	現在、団体の方で著作権について確認を進めており、著作権管理団体と調整中である。作品を扱う場合にはクリアできた状態で開講する。
山中委員長	テーマについて、「おとなジグソー」「国語」「読書」といった大きなキーワードが並んだタイトルがやや分かりにくく感じられる。もう少し分かりやすい表現にした方がよいのではないかと。講師とも相談しながら、よりすっきりとしたタイトルに改善できるとよい。
事務局	講師と調整していく。

### 【ビジネススキルコース】

富岡委員	「問いのチカラ—情報社会を生き抜く思考術」から「問題解決の思考法」へと内容が変わった経緯を知りたい。 また、テーマが「問題解決」とあるが、日常業務での目の前の問題解決なのか、先を見据えた新しいビジネス課題や社会課題の問題解決なのか、どちらなのか。
事務局	前回は「問いの立て方」をメインテーマとして検討していたが、問いの立て方から問題解決までのプロセスを学ぶことができれば、さらにビジネススキルとして実践的な学びになるのではないかと。というところから、講師と調整していく中で内容の変更となった。 内容としては、学んですぐに活かせる内容を検討している。時間設定についても120分1本に限定せず、テーマ別に動画を分けるなど、講師と調整していく。
富岡委員	仕事の中で悩みを抱えている方は多く、問題解決というテーマには関心を持つ人が多いと考えられる。そのため、問題解決を入り口として「問い」を立てることから始め、プロセスを学ぶことが重要である。今回のコースに期待している。

川又委員	動画はオンデマンド形式なのか、リアルタイム形式なのか。もし、リアルタイム形式を検討しているのであれば、講義中の質問者や意見者への対応が追いつかず収集がつかなくなるようなケースもあり、リスクがあるので、やり方には注意が必要である。
事務局	今回はオンデマンド形式を予定している。今後リアルタイム形式で開催するようなことがあれば、やり方に注意していきたい。
川又委員	オンデマンド形式での配信が可能なら、自由度が高くなる。この講座に限らずオンデマンド形式のコンテンツを増やしていけば、市民大学にアクセスする人が増えるのではないかと。「まず市民大学に来てもらうことが重要」という話もあったので、オンデマンド形式を活用すれば、ハードルを下げ、次の受講につなげるための有効な手段になり得ると思う。今後検討をお願いしたい。
黒金委員	内容は講師との打ち合わせに基づき、しっかり構成されていると感じる。一方で、テーマの書き方が抽象的であり、誰が聞いたらいいのか、例えば社長なのか新入社員なのか営業職がいいのかなど、分かりにくい印象がある。受講対象が明確になるよう、テーマをより具体的に示した方が集客につながるのではないかと。

#### 【プログラミングコース】

小澤委員	新設されたおとな向けコースは、こども向けコース受講者の保護者が対象ではなく、全く別の方が申し込むのか。また、講座資料は同じものを使って行うのか。
事務局	別の方の申込みである。また、講座資料は同じものを使って行う。
小澤委員	せっかくこども向けとおとな向けの両方があるので、最終的に子どもと大人が一緒に取り組むような講座が1日あってもよいのではないかと。子どもと大人がお互いにやっていくことで相乗効果があるかもしれないので、もったいないと感じる。今後のプラスアルファの新しい試みとして検討してもらえるとよい。

#### 【パソコンコース】

秋本副委員長	今後も「人気があるから」という理由で Word や Excel の講座を続けるのか。それとも明確な理由があり必要性があるから続けるのか。昔に比べると Word や Excel の需要はかなり減っている感覚がある。公民館などでレクリエーションを兼ねながら Word や Excel をやるなら理解できるが、「学びを深める」という市民大学の考え方からするとそれに合致しているのか。Word や Excel の必要性についての考え方を聞きたい。
事務局	公民館が取り組むべき課題にデジタルデバイドの解消があり、その中でパソコンコースは市民に必要とされていると考えている。プログラミングコースや ICT スキルコースなど、様々なコンテンツをプラスで考えながら、今年度は Word や Excel も続けていきたい。

事務局	さいたま市はデジタルデバイドの解消を目指しており、さいたま市みんなのアプリなども市民に広めようとしているが、なかなかデジタルコンテンツに馴染めない、ハードルが高いと思っている市民もいる。過渡期はいつなのか見極めは難しいが、現在はまだパソコンコースは必要であると考え。パソコンコースは人気があり、応募者数・参加者数ともに多いため、市民大学としても必要なコースではあるが、市民大学の役割として、日進月歩のデジタル技術から取りこぼされない市民層をどう増やすのか、デジタル技術を身に着けるための教材がWordやExcelでいいのか、今後どういうものを媒体にすればいいのか検討していく必要はある。
黒金委員	デジタル地域通貨「さいコイン」について、登録店の拡大とアプリのダウンロード両面での促進を進めているが、高齢者の中にはスマートフォン操作が難しい方が多く見られる。今後、パソコンコースの中に、デジタル地域通貨など身近なデジタルサービスの使い方を取り入れることも、今後の検討材料としてよいのではないかと思う。

- ③ 青少年宇宙科学館、うらわ美術館、大宮西部図書館、博物館より、科学、美術、文学（Ⅰ、Ⅱ）、歴史の各コースについて説明をした。

以下、質疑等の内容

【科学コース】

小澤委員	説明を聞いて非常に楽しそうな講座だと感じ、理系分野が苦手な自分でも興味を持てる内容だとイメージが膨らんだ。しかし、資料の「主な内容」を見ると、具体的にどのようなことをするのがやや分かりにくく、少し不安に感じる方もいると思うので、受講生が自分たちで作ったプログラムが実際に活かされるというワクワクする要素など、魅力的なポイントをもう少し足して表現するとよい。講座を担当する講師は、いつも宇宙科学館にいるのか。
青少年宇宙科学館	宇宙科学館でも教室事業を担当している講師である。
小澤委員	宇宙科学館は子どもたちに非常に人気のある場所である。今回参加できなかった子どもたちにも「こういう場所があるんだ」と知ってもらえるような紹介が資料に少し加わると、より魅力が伝わると思うので、今回説明してもらった内容を資料にも反映してもらえるとよい。
青少年宇宙科学館	いただいたご意見を基に、資料にも反映していく。

【美術コース】

富岡委員	展覧会に合わせてさいたま市に関わる美術の話をするとのことだが、展覧会では美術館の学芸員が関連イベントを実施すると思う。市民大
------	----------------------------------------------------------------

	<p>学での講座は、それらのイベントとどのように違うのか。</p> <p>またこのコースならではの特徴やポイントはどこにあるのか。</p>
うらわ美術館	<p>美術館が独自に行う企画は、展覧会の作品に直接結びついた、いわば「展覧会ありき」の内容で構成される。一方、市民大学の講座は、展覧会に合わせてはいるものの、展覧会の作品そのものの解説に深く踏み込むわけではなく、あくまで「つかず離れず」の関係性を保っている。市民大学の講座では、展覧会に直接的に紐づく内容ではなく、展覧会の企画を考える際のきっかけとなった資料などを取り上げ、意見をもらった専門家から詳しく伺う内容のため、美術館のイベントとは異なる視点から学べる講座となっている。</p>
富岡委員	<p>元埼玉県立近代美術館学芸員の方が講師を務めるとのことであり、取り上げる予定の瑛久氏や田中保氏の作品は埼玉県立近代美術館の所蔵品であると思うが、近代美術館との連携の可能性はあるのか。</p>
うらわ美術館	<p>会期を少し重ねるようにして、田中保氏の作品をコレクション展示室で展示してもらえる予定である。受講生にも講座と合わせて埼玉県近代美術館のコレクション展に足を運んでもらえると、講座での学びがより深まると思う。</p>

#### 【文学コース】

富岡委員	<p>文学Ⅱコースについて、シリーズ化はとてもよい取り組みであり、詩に関心を持つ方が増えるとよいと思う。また、詩を朗読してみる・詩を作ってみる、といった別の切り口で広がるシリーズ化も考えられるのではないかと。こうした多様な切り口についても検討してもらえるとよい。</p>
大宮西部図書館	<p>講師の先生は当初、「受講生が自分の詩を作り、それについて皆で意見を語り合う会を開きたい」という目標を持っていた。しかし、図書館側の考えとしては、初めて会う受講生同士で率直な意見交換を行った際に、辛辣な意見が飛び交ってしまう可能性もあり、せっかく市民大学に来てもらったのに傷ついて帰ることになってしまう恐れがあった。そのため、初回からその形式を採用するのは難しいのではないかと講師と調整を行った。まずは「詩に触れてみる」「詩って面白い」という部分を学んでもらい、受講生同士が顔見知りになってから、改めて「自分でも詩を作ってみませんか」と提案する流れが望ましいと考えている。その点については既に講師とも一度相談しており、講師の手応え次第では、来年あるいは再来年には、受講生が自作の詩を作ったり朗読したりし、それを互いに共有するような講座も実現できるのではないかと考えている。そうした展開も視野に入れながら、今後の講座づくりを進めていきたい。</p>

#### 【歴史コース】

水町委員	<p>さいたま市を深く理解することは重要だが、歴史的に見るとさいたま</p>
------	----------------------------------------

	<p>市は後から行政区画として形成された地域であり、周辺地域の文化遺産もその土地を理解する上で欠かせない要素なのではないか。例えば市の南部に住む市民は、岩槻方面よりも朝霞・戸田・蕨・川口といった近隣市の方が生活圏として近く、むしろそちらに興味を持つことも多い。そのため、さいたま市にこだわることは大切ではあるが、近隣地域の文化財も併せて紹介しながら、その比較の中でさいたま市の文化財の魅力を浮かび上がらせるような構成が望ましいのではないか。また、アーティストの視点から見た文化財の意味や、現代的な価値を伝える工夫があると、より多くの市民が興味を持つきっかけになるのではないか。異なる地域や異なる視点とのつながりを取り入れることで、講座内容がさらに豊かになるのではないかと思う。</p>
--	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

以下、全体質疑等の内容

水町委員	<p>全講座に関して、参考図書の紹介などは講座終了時に必ずあるのか。講師から今後の学びに役立つ参考図書を紹介してもらおうような仕組みになっているのかどうかを確認したい。文学コースのように、内容的に参考図書の紹介が自然に行われる講座もあると思うが、美術や歴史コース、教養コースなどでも、受講後に「もっと自分でも勉強してみたい」と思った際に手がかりとなる資料が提示されるとよい。また、それらの図書がさいたま市図書館に所蔵されていれば、さらに利用しやすくなる。こうした参考図書紹介の準備が既に行われているのか、それとも今後検討してもらえる可能性があるのか。</p>
事務局	<p>現状では、参考文献を必ず示すよう講師に依頼はしていない。本などの参考文献を読むことで学びが深まることもあると思うので、必要に応じて講師に依頼するなど検討していく。</p>
水町委員	<p>講座内容の振り返り方法について、学校などでは、学んだことを書いたり発言したりする機会が、学びを深めるうえで非常にインパクトがあると感じている。市民大学では時間の制約もあるため、アンケートを書く程度にとどまることが多いとは思いますが、アンケートの中に「何を学びましたか」「これからその学びをどう生かしていきたいですか」といった簡単な問いがあるだけでも、受講者にとって学びを整理するよい機会になるのではないか。強制的に書いてもらうくらいが、受講生のためにもなると思う。今後中長期的に検討してもらえるとよい。</p>
事務局	<p>アンケートの中で、講座の内容や学びや気づきについて書いてもらっており、思いを伝えてもらう機会にもなっている。また、受講内容を整理できるきっかけにもなっていると思うので、今後も継続してやっていきたい。</p>

## 1 2 その他

令和8年度募集案内の発行・運営委員会等のスケジュールについて、事務局から説明。

13 閉会